

「海をきれいに、安全に、秩序正しく」
海上保安友の会札幌支部



会 報 (第48号)

令和8年3月1日発行



(釧路海上保安部「PLH01 そうや」) ※R7.12.21 就役

海上保安友の会札幌支部事務局

〒047-0007

小樽市港町5番2号 小樽地方合同庁舎

小樽海上保安部 管理課 内

電話 0134-27-6118 F A X 0134-23-9700

正会員数 68名 (R8.3.1現在)

海上保安友の会



～ 新年のご挨拶 ～

海上保安友の会札幌支部 会長 徳梅 真

いつも当支部運営に、ご協力とご理解を頂き誠にありがとうございます。
今年もこの時期の会報となりますので遅くなりましたが、本年もよろしくお願い申し上げます。
くれぐれもご自愛ください

さて、特に本年は、昨年からの降雪に皆様におかれましても尋常ではなかったこととお見舞い申し上げます。昨年は空知地方の豪雪の話題をテレビ等のニュースで見えておりまして他人事のように思っておりましたが、一転今年はこの石狩地方が大変な目に遭っておりました。

近年は、地球の温暖化が進み気温上昇により大きく環境が変わってきております。

私も父親の転勤で幼稚園児の時代に留萌市に住んでおりましたが、それこそ一晩に軒下付近まで降り積もって祖父がトンネルを掘って外へ出たことを記憶いたしております。

そのころから67年あまりが経過いたしておりますので、現在とは取り巻く環境が違いすぎますことで、今とは比較にはなりません、それにいたしましても小樽・札幌地区にお住まいになられている皆様方にはお疲れさまという気持ちでした。

さて、支部役員等によります恒例の新年会を1月24日に実施を致しまして、来年度のことなどをご参加頂きました小岩井部長、菅原次長はじめ管理課、交通課の皆様と情報交換をさせて頂き、今後の支部活動等の方向性を確認させて頂きました。（その時の写真です）



最後に、今後とも札幌支部へのご理解とご協力を引き続き、ご都合のつく限りイベント等へのご参加をよろしくお願い申し上げます。
ありがとうございました。

～ 令和7年度下半期の活動 ～

小樽海上保安部の令和7年度下半期の活動について、ご紹介いたします。

○ 石狩灯台一般公開及びライトアップ

令和7年10月25日（土）、航路標識協力団体である石狩観光協会と共催で、灯台記念日の一環として「石狩灯台の一般公開及びライトアップ」を実施しました。本イベントでは、石狩灯台の内部公開を行い、石狩灯台お兄さんも登場しました。

※11月1日は、我が国初の洋式灯台である「観音崎（かんのんさき）灯台」（神奈川県横須賀市）の起工日である1868年（明治元年）11月1日にちなみ「灯台記念日」と定めています。



○ 新日本海フェリー「らべんだあ」に対する安全指導

年末年始の多客繁忙時期における船舶交通の安全確保を図るため、北海道運輸局が実施する「年末年始の輸送等に関する安全総点検」に併せ、「カーフェリーに対する安全指導」を実施しました。



○ 海の緊急ダイヤル「118番」認知度向上イベント

1月18日を「118番の日」と定めていますが、正しい利用方法と重要性をより多くの方々に知っていただくため、令和8年1月18日（日）ウイングベイ小樽において「118番イベント」を開催しました。

イベントでは、パネル展示とともにうみまるとの記念撮影や缶バッジの作成・配付、うんこドリルゲームなどを行いました。



○ 釧路海上保安部所属巡視船そうや一般公開

令和8年2月14日（土）、釧路海上保安部巡視船そうやの一般公開を行いました。巡視船そうやは、令和7年12月19日に新造船と就役し、今回小樽港に初寄港でした。当日は友の会会員の皆様をはじめ、多数の方々に新しい巡視船そうやをご覧いただきました。



○ 国立小樽海上技術短期大学校との連携協力締結



令和8年3月19日（木）、巡視船えさん船内において、国立小樽海上技術短期大学校と連携協力すべく、覚書の締結式を執り行いました。

多様な分野で人的・知的・物的資源の交流を図り、海技教育の発展や海難防止に係る安全意識の向上、人材の育成など双方にとって有効であると認識したことから、覚書の締結に至りました。

～新造 巡視船そうや見学会に参加して～

海上保安友の会札幌支部 副会長 高山 譲

2月14日に、昨年12月に就役した、新しい巡視船「そうや」の見学会が実施されました。荒天により、大雪が続く毎日でしたが、当日は素晴らしい晴天に恵まれ気温も高く、無風状態の日となり、参加された会員皆様の願いが叶ったような日となりました。

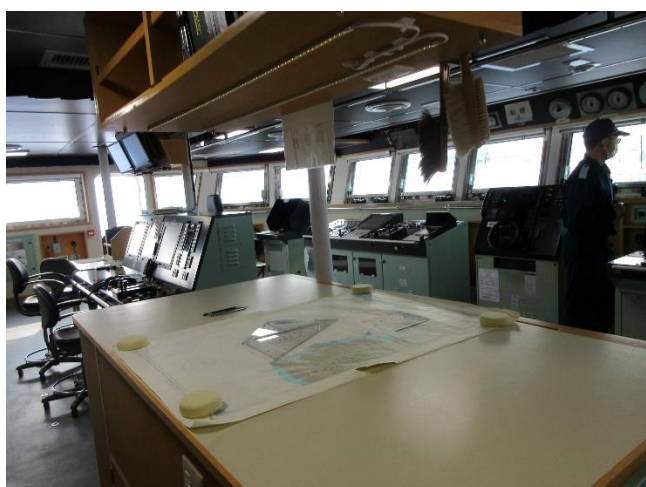


旅客船ターミナルに接岸している真新しい大きな船体、これが本日見学をさせていただく、新しい砕氷型巡視船「そうや」です。船番号 PLH01 を引き継いだ純白の船体、船首部に白地に青い大きな S 字マークが鮮やかで、船体に全く錆びも無く、船体を係留しているロープは新しく緑色をしており、どれを取っても新造船を感じられる大きな船体が、晴天の空の下に接岸しており、一層の感動を覚えました。

見学会は、10名ずつの班に分かれて、実施されました。船内に入ると新造船特有の塗料の香りがし、これだけでも新しい船なのを十分に感じ取れました。最初に公室に案内され、私は第2班でしたが先発の第1班と後発の第3班の方々と合流し、小樽海上保安部の小岩井部長からご挨拶をいただきました。その後再び各班に分かれて、船内の見学を再開し医務室、ヘリコプター甲板、船橋、OIC室、厨房等をゆっくりと見学させていただきました。特に船橋やOIC室は広くゆったりとしており、ヘリコプター搭載型の巡視船の大きさと広さを感じさせられ、また新しい各機器

の導入により省力化が進んでいる説明をしていただきました。厨房も近代化された厨房で、現代の主力調理機器であるスチームコンベクション等が設置されており、このスチコンで色々なおいしい料理が作れるお話をお聞きしましたが、その隅には、従来の集団給食の基本調理機器である回転釜も私を忘れないで欲しいと言わんばかりに鎮座しており、素晴らしい厨房設備を見ながら、ここでおいしい船飯がつくられているのだと思いながら次へ進みました。約 1 時間程度で船内見学を終了し、下船後そうやを背景に参加会員全員で記念撮影をして解散となりました。

このような行事を企画及び準備をしていただきました、小樽海上保安部の小岩井部長をはじめとする職員皆様、船内のご案内及び説明をしていただきました巡視船そうやの乗組員のみなさまへ紙上をお借りして心より御礼申し上げます。



投稿

～冬の海保旅 海上保安大学校・海上保安資料館 横浜館～

海上保安友の会札幌支部 副会長 澤田奈緒美

私がまだ海上保安庁の名前も知らなかった頃、YouTube でアップされていたある動画に、潜水士の養成研修の様子が映し出されていました。どんなに厳しい訓練でもあきらめることなく、「人の命を救いたい」という強い思いで訓練し続ける方々を見て感動し、志の高さに涙があふれたのをよく覚えています。その研修が行われていた場所は、海上保安大学校でした。この動画がきっかけで海上保安庁の大ファンになり、各地での海保イベントに参加したり、旅先で海保関連の施設を訪ねたりするようになりました。いつか海上保安大学校にも伺いたい…そんな思いが、この冬ついに叶いました。

海上保安大学校は、広島県呉市にある海上保安庁の幹部職員を養成する教育機関です。1月の初め、豪雪の北海道から広島へと飛びました。もちろん雪はなく、少し暖かさを感じるぐらいの陽気です。冬の厳しい日本海とは違い、瀬戸内海は波も穏やかでした。

高台にある海保大の敷地内を歩くと、初代の練習船こじまの推進器や大錨が展示されており、校舎前には海上保安庁の庁旗が掲げられていました。建物の外側からではありますが、あの動画で見た潜水訓練用のプールも目にすることができました。まだ冬季休暇中だったので、学生の姿はなく構内は静かでしたが、職員の皆さんが休み明けの訓練や授業などの準備をされていました。学生の皆さんが戻られると、きっと活気あふれる日常が戻るのでしょう。いつか、「海神祭（わたつみさい・海保大の学校祭）」にも訪れてみたいと思いました。



今回は学校長室にもご案内いただき、校長先生に直接お目にかかることができました。教育方針や人材育成についてのお話を伺う中で、幹部海上保安官の育成にかける強い信念を感じました。初対面で緊張している私に気さくに声をかけてくださり、その優しく温かいお人柄にも感動

しました。イベント等で多くの海上保安官の方々や海保ファンの皆様と交流していること、海上保安友の会で楽しく充実した活動を行っていることなどをお伝えすると、終始笑顔で耳を傾けてくださいました。最後に、「これからも海保の応援をよろしくお願いします。」と嬉しいお言葉をいただき、胸が熱くなりました。

その後、構内に併設されている資料館を見学させていただきました。入り口付近には、映画「海猿」の台本や俳優の方々が着用されたウェットスーツ、漫画「トッキュー！！」の作者、久



保ミツロウさんのサインなどがありました。歴史的な資料や装備の変遷などが分かる展示も多数あり、海上保安庁の歩みと伝統を学ぶことができました。中でも強烈に印象に残ったのが、巡視船あまみの船橋前面部分の展示です。北朝鮮の工作船からの銃弾の跡が生々しく残っており、思わず息を呑みました。当初の旅程には入れていませんでしたが、改めて海上保安資料館 横浜館を再訪しようと思い立ち、広島を後にしました。

海上保安資料館 横浜館はこれまで何度か来館していますが、今回は海保OBの方がいらっしゃったので、詳しい説明を伺いながら見学しました。館内では、工作船からの銃撃の様子を収めた映像が流れていましたが、これは海上保安官の方が自ら撮影したものなのだそうです。一歩間違えば命の危険もあったそうですが、「何としてもこれを映像に残さなければ。」と極限の状況で撮影していたとのことでした。巡視船あまみの船内にあったモニターも被弾していましたが、通常モニターは見やすいように頭の高さに設置されています。銃弾が乗組員の方の頭に当たっていた可能性もあると聞き、言葉を失いました。説明して下さった海保OBの方が呟いた、「命がけですよ。」という言葉が、重みをもって心に響きました。「日本＝平和な国」なのではなく、日本の平和を維持するために日々尽力されている方々がいるということを忘れてはいけない…改めてそう考えさせられました。



今回の海保旅を通して、海上保安庁の皆様への尊敬の念がより一層深まりました。大切な日本の海を守り続けてくださっていることに、改めて感謝申し上げます。これからも変わらぬ思いで、心からのエールを送り続けてまいります。

～能登半島地震で果たした役割～

海上保安友の会札幌支部 理事 安田邦明

1 はじめに

令和6年1月1日に能登半島地震が発生しました。

まず、被災された皆様及び親族関係者の方々ご苦労が多く大変だったと存じます。

ここでは、能登半島での災害・支援の状況の共有を図ることで、災害を知らない者の取り組みの糧といたしたく、話題とすることにご理解をお願いいたします。

今回は、能登半島地震の様子、海上保安庁の支援活動などを通じて、今後の災害復旧への意識や友の会の活動についてみなさんと考えていきたいと思います。

2 能登半島地震の概要

- ① 発生日時：令和6年1月1日16時10分
 - ② 震 源：石川県能登地方 M 7.6 深さ16km
 - ③ 震 度：最大震度7（輪島市、志賀町）
 - ④ 被害状況
 - ・住宅、ライフライン等の甚大な被害
 - ・人的・住家・主要大動脈被害（液状化被害）
- ※被害者等の詳細な数字は控えさせていただきます。

3 海上保安庁による支援活動

令和6年11月に国土交通省港湾局で取りまとめた資料の一部があります。

（全文は <https://itdps.org/2024GM/O7.pdf>）



左の図にある通り、海上保安庁ではいくつもの支援を行いそれが報告されています。

特に、給水支援の例があります。（七尾港で合計2,926台、7,862トン。平均2.7トン/台、輪島港合計11台、26.5トン、平均2.4トン/台）給水された水は被災された各地に輸送され、飲食や入浴に利用されました。

1月3日から3月1日まで毎日給水支援は行われました。具体的な作業としては、巡視

艇で金沢港から七尾港や輪島港まで船内のタンクを満タンにして輸送を行いました。七尾港や輪島港から給水車によりその水を各被災地に運搬しました。

では、仮に海上保安庁が参加せず陸路のみで、被災地に一番近い給水箇所である金沢市から七尾市へ給水車で運んだ場合どうなっていたでしょう。

県道で往復 132 キロ、平均時速 30km として運搬時間だけで 4 時間以上必要となり、提供時間も含めると約 3 トンの給水車が 1 日 1 回程度しか給水支援ができません。また被災直後の県道（最短ルート）が運行できたかも疑問です。

これを考えると巡視艇で水を輸送したことが、避難している方々の水確保の上で効率的で重要な任務であったことがはっきりわかります。

また、この任務にあたった巡視艇は、海路の苦労を単独で負うことになります。近隣の箇所では海底の隆起により、海面より高くなったと情報もありました。その中で、被災状況がわからない海底や港湾施設の間をレーダーなどで判断し、巧みな操船を行い、目的の港に接岸させたのです。

このことで、避難所などから近い港から、何度も給水支援が可能となったのです。

更に、「のと」に加え、「でじま」など全国から派遣された巡視艇が任務にあたったとのことです。すべての巡視艇が安全航行、危機回避を行ったことで支援活動が継続できたことになります。このような航行技術を多くの職員が修得していることに敬意を払います。

時期としてはかなり遅く、今更なのですが、通常の任務を行いながら応援活動は大変だったと思います。お疲れ様でした。

4 まとめ

国土交通省の他の部局は費用も作業も大掛かりで、現在も復旧・復興の作業を継続しています。非常に重要なことだと思います。

ただ、被災後迅速に対応が求められている場合、真っ先に対応できる部署の重要性を忘れてはいけません。日頃から警戒業務をコツコツと積み重ね、万が一に対応できるように訓練している組織があることを十分認識していただきたいものです。

ただ、少し海上保安庁さんもPRをもっとしても・・・

我に返って、海上保安友の会の皆さん！日本国民全員に急に「海上保安庁はすごい組織です。」と言ってもなかなか通じないと思います。まず、我々が今回の様な活動をきちんと知り、きちんと内容を把握し、きちんとした海上保安庁のファンになりましょう。そして、その理解を深め（巡視艇の体験乗船や灯台の公開へ参加して）少しずつその輪を広げていきましょう。

～小樽海上保安部所属巡視船艇～



巡視船えさん



巡視船しれとこ



巡視船ほろべつ



巡視艇すすかぜ



巡視艇やぐるま

小樽港沖の巡視船えさん、すすかぜ、やぐるま



【事務局からのお知らせ】

本会報の送付に合わせ、別葉にて写真をお送りさせていただきます。

- ① 「小樽雪あかりの路タイアップ 小樽港内停泊中のえさんイルミネーション」
- ② 「小樽港初寄港時の釧路海上保安部巡視船そうや（新造船）」



小樽海上保安部ホームページ

♪♪ **原稿・写真募集中** ♪♪

会員皆様の本会報への投稿記事又は写真などをお待ちしています。

また、海上保安新聞への投稿もよろしくお願いします。

次の送り先に郵送又はFAXにて送付してください。

送り先：海上保安友の会札幌支部事務局

〒047-0007 小樽市港町 5-2 小樽海上保安部内

TEL0134-27-6118 FAX0134-23-9700